

もつとネット



14号

2016年6月発行

和歌山県・和歌山大学との 連携事業 特集

2009年度～2015年度 実施講座数
和歌山県 (42 講座) ・ 和歌山大学 (49 講座)

地図上の数字は各地域での実施回数



2014年の消費者教育担い手養成講座風景



和歌山大学と共同開発した講座「夢の実現」の教材(紙芝居)

2001年からスタートした和歌山とC・キッズ・ネットワークとの連携事業も15年が経ちました。これからも教育関係者の方々や行政との連携で、消費者教育を推進していきたいと思っております。

C・キッズ・ネットワークと連携した消費者教育

和歌山県環境生活部県民局県民生活課長 立石 和史

C・キッズ・ネットワークと和歌山県は、消費者庁主催の地方消費者グループ・フォーラム実行委員会で一緒したことがきっかけで、消費者教育推進のため、平成24年度から県内各地における講座の講師などで連携させていただいています。

貴団体との連携した取組のひとつに、学校向け「消費者教育」支援事業として出前講座があります。教育委員会を通じて、県内の小・中学校、高校から講座の希望を募り、食育や金銭教育、インターネットの注意点など、各学校が希望する内容に合わせて各地で講座を実施しています。平成27年度は8校21クラス約500人が貴団体の講座を受講しました。中には、毎年講座を希望する学校もあります。

もうひとつの取組として、消費者教育の担い手団体を育成する事業があります。これは、行政のみで消費者教育を進めることに限界があることから、地域で活動をしている団体の方々に消費者教育を取り入れてもらうための取組です。読み聞かせ団体などに貴団体の講座を受講してもらい、講座の進め方などのノウハウをはじめ、教材を使うためのコツ、教材の作り方などを学び、県内の消費者教育の担い手団体の裾野を広げているところです。これまでに13団体が育成講座を受講しています。また、講座を受講した担い手団体などが消費者教育を実施することをサポートするため、県内7振興局において講座で使用した教材の貸出しを行っています。

本県では、今後も「和歌山県消費者教育推進計画」に基づき消費者教育を推進していきたいと考えており、貴団体のフットワークや教材作成のノウハウ、そして何より講師の方々の熱意は心強い限りです。これからも本県の消費者教育の推進にお力添えをお願いいたします。

消費者教育担い手養成講座

2015年度の講座風景

ネット講座



「賢く使おう！ネットとスマホ」

パワーポイントを使って説明

おやつ講座



「どんなおやつ食べてるの？」

紙芝居『ホットケーキをつくろう！』を実演
ホワイトボードには『おやつすごろく』

「3つのお皿から食べよう！」

受講生が『つりぼりゲーム』を実践中



食育講座

「化粧」

朝日新聞日曜版のグローブに「化粧」が特集されていた。ネパールにある保護施設で、人身売買などの強いストレスを受けた女性たちに化粧をすると、笑顔がもどってきた。「自分もきれいなんだ」と自信を持つことがトラウマを乗り越えるきっかけになったそうだ。

化粧で自信や元気を取り戻すのは若い女性だけではなく、老人ホームでも認知症が進んだ人も慎み深くなったり、介添えなしで廊下を歩けるようになった人もいて、職員が驚くという。「化粧によって心と体が作用しあい、社会性が向上する」、こうした力に注目して、入居者に化粧をほどこす施設が増えているらしい。実際に神戸の老人ホームで長年化粧ボランティアをしている人に同行する機会を得た。化粧の後、手鏡に映る自分の顔を見ると、笑顔がこぼれ見違えるほど明るくなった人がいた。「きれいになりましたね」と声を掛けると、嬉しそうにうなずかれ、来た時は杖を突いていた女性は杖なしで戻って行かれた。また、化粧した後、積極的に他の利用者さんとお話をしている人もいて、微笑ましかった。

茂木健一郎の「化粧する脳」の中で、鏡に映った自分と目が合うとドーパミンが放出されたという実験結果が載っていた。しかも、化粧前の素顔の自分と目が合うと、「これから化粧をしてきれいになる」という期待感により、より多くのドーパミンが放出されたとあった。化粧後の自分の姿が社会的に認められることを想像し、期待感や励み、意欲といった感情がわき上がっているとも考えられているようだ。会員K・K

特別支援学校向けプログラム紹介

2015年度消費者庁先駆的プログラムに兵庫県と連携して採用され、特別支援学校のニーズ調査を行いました。その結果を反映させた特別支援学校向け6プログラムをラインナップしましたので、紹介します。

◆ 契約講座「悪質業者にまけんぞう!スゴロク～若者編～」

スゴロクを楽しみながら悪質業者の手口を知り、対処法を学ぶ

◆ ネット講座「賢く使おう!ネットとスマホ」

インターネットのモラルや注意点について2コマ漫画を使ったグループワークで確認し、ロールプレイを取り入れた手法でトラブル事例の対応策を考える

◆ 金銭講座「楽しいやりくり」

模擬の給料を手し、収入の範囲でやりくり、急な出費や夢の実現に備える貯金の大切さを学ぶ

◆ 食育講座「どんなおやつ食べてるの?」

ジュース・菓子に含まれる糖分の量を視覚化した「砂糖当てクイズ」で把握し、スゴロクを楽しみながら体に良いおやつについて学ぶ

◆ 環境講座「リサイクル de シンプルライフ」

商品を見ながらリサイクルするためのマークの種類を知り、分別ワークを通じてゴミの分別ルールを学ぶ

◆ 衣生活講座「TPOってな～に?」

服装はTPOを考えた選択が大切なことを学び、場面に適した服装を選ぶグループワークを通じて服の役割を学ぶ



～編集後記～

14号は和歌山県・和歌山大学との連携事業特集でしたが、今までの色々な活動を振り返ると、沢山の方々が支えてくださったおかげで、C・キッズが成長できたのだ、と改めて思いました。

2016年6月

広報委員一同